

【報告基準日】

- ・ 平成27年3月1日

世界遺産暫定一覧表記載資産 準備状況報告書**1. 資産名称**

かみやどるしま むなかた おきのしま かんれんいさんぐん
「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

2. 所在地(都道府県及び市町村名)

ふくおかけん むなかたし ふくつし
福岡県、宗像市、福津市

3. 資産の適用種別(記念工作物、遺跡、建造物群の別、文化的景観の適用の有無)

遺跡

4. 資産の概要

本資産は、島を信仰の対象とする文化的伝統が古代祭祀の変遷と展開の中で形成され、現代まで継承されてきた過程を物語る稀有な物証である。日本列島と朝鮮半島との間に位置する沖ノ島は、高度な航海技術をもった宗像地域の人々の信仰の対象であった。沖ノ島は統一国家形成期の東アジアにおいて海を越えた交流が頻繁に行われた4～9世紀の約500年間に及ぶ、おびただしい量の貴重な奉獻品を用いて航海の安全を祈った古代祭祀の変遷の考古学的物証である。7世紀後半には同様の祭祀が大島や本土でも行われるようになり、海によって結ばれる沖津宮、中津宮、辺津宮という広大な空間で宗像三女神をまつる宗像大社が成立し、現在まで続いている。対外交流の担い手として祭祀を行い、信仰の文化的伝統を育んだ宗像地域の人々の存在の物証は、5～6世紀に九州本土から沖ノ島へと続く海を望む台地上に築かれた新原・奴山古墳群として残されている。島全体が信仰の対象である沖ノ島では、厳しく入島を制限する禁忌などの信仰の慣習が人々の間に根付き、古代祭祀遺跡がほぼ手つかずの状態に現代に伝えられてきた。大島に設けられた沖津宮遙拝所は、沖ノ島を遙拝する伝統を示すものである。その信仰は宗像三女神信仰として現代に継承され、日本固有の信仰と実質的関連をもっている。

5. 推薦に向けたこれまでの取組・体制整備の状況

- (1) 暫定一覧表記載から平成26年4月25日世界文化遺産特別委員会報告時点(基準日:平成26年3月1日)までの取組・体制整備の状況
- 平成21年1月5日「宗像・沖ノ島と関連遺産群」ユネスコ暫定リスト記載

- 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議
経済団体・市民代表・文化教育団体・行政（福岡県・宗像市・福津市）による官民一体組織。平成 21 年設置、基準日まで 7 回開催。

- 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議
平成 21 年設置、基準日まで 10 回開催。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議委員	
稲葉 信子	: 筑波大学大学院教授
岡田 保良	: 国士舘大学イラク古代文化研究所教授
金田 章裕	: 京都大学名誉教授・元人間文化研究機構長
佐藤 信	: 東京大学大学院教授
西谷 正	: 海の道むなかた館長（「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議委員長）
三輪 嘉六	: 九州国立博物館長

- 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」国際専門家会議
平成 21 年から基準日まで 5 回開催。

国際専門家会議参加海外専門家		○ は国際会議出席回数
ダグラス・コマー	: アメリカ	イコモス考古学遺産管理委員会 (ICAHM) 共同委員長 (2)
クリストファー・ヤング	: イギリス	イングリッシュ・ヘリテージ (3)
サイモン・ケイナー	: イギリス	セインズベリー研究所 (3)
ガミニ・ウィジャスリヤ	: イタリア	文化財保存修復研究国際センター (ICCROM) (5)
任 孝 宰	: 韓 国	ソウル大学名誉教授 (5)
禹 在 柄	: 韓 国	忠南大学校教授 (3)
シンティア・ダニング	: スイス	イコモス考古学遺産管理委員会 (ICAHM) 専門委員 (2)
王 巍	: 中 国	中国社会科学院考古研究所所長 (3)
朱 岩 石	: 中 国	中国社会科学院考古研究所 (1)
呂 舟	: 中 国	中国イコモス副代表 (1)

- 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」推薦書原案検討委員会
平成 25 年 7 月設置。基準日まで、3 回開催。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」推薦書原案検討委員会委員	
稲葉 信子	: 筑波大学大学院教授
岡田 保良	: 国士舘大学イラク古代文化研究所教授
佐藤 信	: 東京大学大学院教授
西谷 正	: 海の道むなかた館長（「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議委員長）

- 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」包括的保存管理計画策定委員会
平成 25 年 6 月設置。基準日まで、4 回開催。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」包括的保存管理計画策定委員会委員	
稲葉 信子	: 筑波大学大学院教授（「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議委員）
杉本 正美	: 九州芸術工科大学名誉教授（宗像市史跡等保存管理推進委員会委員）
仲間 浩一	: トレイルボックス（福津市景観専門家会議委員長）
西谷 正	: 海の道むなかた館長（「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議委員長）
西村 幸夫	: 東京大学大学院教授
日高 圭一郎	: 九州産業大学工学部教授（宗像市景観まちづくり検討委員会会長）
フンク・カロリン	: 広島大学大学院総合科学研究科准教授

- 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」景観デザイン会議
平成 26 年 1 月設置。基準日まで、1 回開催。

緩衝地帯内における公共事業に関わるデザイン審査(3 件実施)。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」景観デザイン会議委員	
杉本 正美	: 九州芸術工科大学名誉教授（宗像市史跡等保存管理推進委員会委員）
仲間 浩一	: トレイルボックス（福津市景観専門家会議委員長）
日高 圭一郎	: 九州産業大学工学部教授（宗像市景観まちづくり検討委員会会長）

○普及・啓発活動

- ・シンポジウム・研究報告会 平成21年以降、基準日まで6回開催。

暫定リスト記載記念シンポジウム「津屋崎古墳群と沖ノ島祭祀」	平成21年2月28日	福津市
第1回「神宿る島-沖ノ島-」	平成22年1月31日	福岡市
第2回「神宿る島-沖ノ島-海を渡る祭祀と祈り」	平成23年2月11日	東京都千代田区
第3回「神宿る島-沖ノ島-新たな視点と世界遺産への取り組み」	平成24年2月12日	福岡市
第4回「世界遺産をめざしたまちづくり」	平成24年9月8日	宗像市
「宗像・沖ノ島と関連遺産群」国際学術研究報告会	平成25年10月12・13日	福岡市

- ・パネル展・公開講座

平成22年から各7回開催。アクロス福岡・九州国立博物館等。

○視察・意見交換会

平成25年5月 皇太子殿下宗像大社辺津宮行啓

平成25年8月 福井照文部科学副大臣視察

平成25年9月 奈良文書専門家会合メンバー（イコモス会長グスタボ・アローズ氏を含む海外専門家10名）による視察

平成25年9月 日本イコモス国内委員会視察（沖ノ島を含む）・意見交換会

○世界遺産登録推進体制

福岡県世界遺産登録推進室10名（事務職5・技術職5 平成24年に4名増）

宗像市世界遺産登録推進室3名（事務職2・技術職1・臨職2名）

福津市世界遺産登録推進室2名（事務職1・技術職1 平成25年に室設置・1名増）

三者会議（連絡調整）・三者技師会議（作業部会）を月2回開催。

- (2) 平成26年4月25日世界文化遺産特別委員会報告以降、本報告書作成時点（基準日：平成27年3月1日）までの取組・体制整備の状況

○「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議

平成26年4月・平成27年3月 平成26年度第1・2回世界遺産推進会議

○「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議

平成26年5月26～28日 第11回専門家会議

平成27年1月18・19日 第12回専門家会議

○「宗像・沖ノ島と関連遺産群」国際専門家会議

第6回国際専門家会議（平成26年8月4～6日）参加海外専門家		
クリストファー・ヤング	:イギリス	イングリッシュ・ヘリテージ
サイモン・ケイナー	:イギリス	セインズベリー研究所
ガミニ・ウィジャスリヤ	:イタリア	文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）

○「宗像・沖ノ島と関連遺産群」推薦書原案検討委員会

平成26年3月23日 第4回推薦書原案検討委員会

平成26年11月26日 第5回推薦書原案検討委員会

○「宗像・沖ノ島と関連遺産群」包括的保存管理計画策定委員会

平成26年7月12・13日 第5回包括的保存管理計画策定委員会

平成26年10月6日 第6回包括的保存管理計画策定委員会

平成27年2月20日 第7回包括的保存管理計画策定委員会

○「宗像・沖ノ島と関連遺産群」景観デザイン会議

平成26年5月21日 第2回景観デザイン会議

平成 26 年 9 月 16 日 第 3 回景観デザイン会議
 平成 26 年 10 月 28 日 第 4 回景観デザイン会議
 緩衝地帯内における公共事業に関わるデザイン審査(15 件実施)。

○普及・啓発活動

・シンポジウム

平成 27 年 2 月 14 日 第 5 回世界遺産シンポジウム 九州国立博物館(太宰府市)

テーマ：「沖ノ島と海を越えた古代の交流」	
「宗像・沖ノ島と関連遺産群の紹介」	海の道むなかた館館長 西谷 正
「古墳時代の日韓関係と沖ノ島」	韓国忠南大学校教授 禹 在 柄
「鏡からみた宗像・沖ノ島」	九州大学准教授 辻田淳一郎
「宗像・沖ノ島からみた九州と倭王権」	関東学院大学教授 田中 史生

・パネル展 12 回開催：福岡県内 9 市町・九州国立博物館・九州歴史資料館等。

平成 26 年 12 月より福岡県庁で常設展示

- ・平成 26 年 6 月 第 38 回世界遺産委員会 (カタール) パンフレット配布
- ・平成 26 年 8 月 東京交流会 (有識者・報道関係者等 109 名参加)
- ・平成 26 年 11 月 第 18 回イコモス総会 (イタリア)

学術シンポジウムにおける報告・パンフレット配布

テーマ3 「Traditional practices in Okinoshima which had been protected living religious archaeological site for 1600 years (聖なる島・沖ノ島を 1600 年以上守り続けて来た伝統的慣習について)」

・平成 27 年 3 月 1 日めぐり(来訪者対策事業)開催 一般 900 名参加

○視察

平成 26 年 5 月 福岡県議団「沖ノ島を考える会」沖ノ島等視察

平成 26 年 8 月 門司健次郎ユネスコ大使 宗像大社辺津宮等視察

平成 26 年 10 月 今村 啓爾帝京大教授・田辺 征夫奈良県立大教授 沖ノ島視察

○その他関連する事業

平成 26 年 5 月 第 1 回宗像国際環境 100 人会議

平成 26 年 8 月～10 月 出光美術館 宗像大社国宝展

○世界遺産登録推進体制

福岡県世界遺産登録推進室 10 名 (事務職 5・技術職 5)

宗像市世界遺産登録推進室 4 名 (事務職 3・技術職 1・臨職 2 平成 26 年に 1 名増)

福津市世界遺産登録推進室 2 名 (事務職 1・技術職 1)

三者会議 (連絡調整)・三者技師会議 (作業部会) を月 2 回開催。

6. 推薦に向けた課題

平成 26 年 7 月 10 日文化審議会世界文化遺産・無形文化遺産部会世界文化遺産特別委員会で指摘された検討を深める必要がある事項への対応状況

1. 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が主張する顕著な普遍的価値における、各構成資産の位置づけ、特に、津屋崎古墳群の中で新原・奴山古墳群のみが構成資産とされている理由についてのわかりやすい説明ぶり。

新原・奴山古墳群は、旧入海に面し本土から沖ノ島へと続いていく海を望む一つの台地上に、5 世紀から 6 世紀という比較的長期にわたって大小 41 基のさまざまな墳墓が一体的に築かれており、宗像氏という集団の性格をより長期間にわた

って示している。また全体的に各古墳の保存状態が良好であるだけでなく、海を望む台地全体を資産範囲として保護されている。

以上から、津屋崎古墳群の中で新原・奴山古墳群は、対外交流の担い手として沖ノ島での祭祀を行い、その信仰を育んだ宗像地域の人々の存在を最もよく証明する古墳群であると判断し、本資産の構成資産として選択した。

2. 1との関わりで、新原・奴山古墳群7号墳（方墳）の位置づけ（墓か祭壇か）についての学術的な調査研究。

平成26年12月～平成27年2月に福津市教育委員会が新原・奴山古墳群7号墳の調査を行った。その際、地中レーダー探査により埋葬施設を有する可能性が高いことが判明し、方墳であることが確認された。

3. 沖ノ島が沖合にある孤島であり無人であることを踏まえた、具体的保全方策の明確化。

沖ノ島は宗像大社の神職が常駐し、所有者による管理が行き届いており、海上保安庁とも密に連携している。島は神社有地であり、無断で立入ることは軽犯罪法により罰則の対象となる。また沖ノ島漁港は漁業者により日常的に利用されているが、漁業者そのものが沖ノ島の信仰を支える人々であり、禁忌を守り遺産の保護に深く関わっている。

4. 緩衝地帯の規制のあり方やその運用方針の包括的保存管理計画における記載ぶり（屋外広告物条例の制定、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」景観デザイン会議の位置づけ等）。

緩衝地帯の規制のあり方について、構成資産間の視覚的一体性及び資産の周辺環境を阻害する要因が生じないように宗像市・福津市の景観条例・景観計画等によって保全措置を講じている。

屋外広告物について、福岡県屋外広告物条例によって管理を行っているが、平成27年11月に施行される宗像市・福津市の屋外広告物条例によって規制強化を図る。

景観デザイン会議は宗像市、福津市の景観審議会代表及び景観アドバイザーから構成され、両市の景観条例に基づき、緩衝地帯内の公共施設等の開発事業を対象に形態・意匠、色彩、施工方法等について協議し、資産周辺の景観に配慮した事業調整を行っている。今後、景観行政団体である宗像市・福津市を中心に景観法に基づく景観協議会を設置し、その諮問機関として景観デザイン会議を位置づけることで行政界を超えた広域の景観管理の連携体制を強化し、更なる緩衝地帯の保存管理体制の充実を図る。

7. 基準の適用

○評価基準(iii)

本資産は、島を信仰の対象とする文化的伝統が古代祭祀の変遷と展開の中で形成され、現在まで継承されてきた過程を物語る稀有な物証である。沖ノ島では4～9世紀の約500年間、おびただしい量の奉獻品を用いて行われた古代祭祀の変遷をほぼ手つかずの状態伝える考古遺跡が守り伝えられてきた。沖ノ島・大島・本土に所在する宗像大社の三つの宮で宗像三女神をまつる古代祭祀が行われるようになり、それぞれが現在に継承されている。日本と大陸との海を越えた交流を

担い、航海の安全を祈る祭祀を行って現在に続く信仰の文化的伝統を築いた宗像地域の人々の存在の物証は、新原・奴山古墳群として残されている。沖ノ島は全体が信仰の対象であり、大島には沖津宮遙拝所が設けられるなど、禁忌や遙拝といった島に対する信仰の慣習が人々の間で現在まで継承されている。

○評価基準 (ii)

沖ノ島で古代祭祀が行なわれた4～9世紀、統一国家形成期の東アジアにおける海を越えた交流が展開した。宗像地域の人々は沖ノ島に航海の安全を祈り、危険を乗り越えて行われた交流に大きな役割を果たし、もたらされた新たな文化や優れた品々は、日本の政治や社会、信仰などあらゆる面の発展に貢献した。交流の航路の守り神である沖ノ島とその祭祀は、地域にとっても国家にとっても非常に重要な意味をもっていた。沖ノ島には当時の希少な舶載品が数多く奉獻されており、祭祀の各段階で変遷していく祭祀遺物は、各時期の対外交流のあり方を反映する貴重な物証である。本資産で考古学的に証明される祭祀の変遷と展開は、古代の東アジアにおける価値観の交流を表象する。

○評価基準 (vi)

本資産では、島に対する人々の信仰が宗像三女神信仰として現代に継承され、日本固有の信仰と実質的関連がある。沖ノ島に対する信仰は、古代から高度な航海技術をもった人々と自然との相互作用の中で生まれ、宗像三女神をまつる宗像大社の信仰の中で現在に至るまで絶えることなく受け継がれてきた。特に漁師の人々の生活と密接に結びついた生きた伝統として、厳しく入島を制限する禁忌などととも信仰は宗像地域の人々に息づいている。また宗像三女神は、水上での安全などを司る神として日本固有の信仰である神道の中で普遍的な地位を獲得し、全国約六千の神社で広くまつられている。その原点である沖ノ島の祭祀遺跡は禁忌などにより非常に良好な形で千年を超える長期にわたり守り伝えられ、日本固有の信仰の形成段階やその古代からの継続性を示す代表的存在である。

8. 真実性／完全性の証明

○真実性

本資産は、島を信仰の対象とする文化的伝統が古代祭祀の変遷と展開の中で形成され、現在まで継承されてきた過程を物語る物証として、完全性を十分に有している。その顕著な普遍的価値は、沖ノ島（宗像大社沖津宮）、沖津宮遙拝所、宗像大社中津宮、宗像大社辺津宮及び新原・奴山古墳群の合計5つの構成資産によるシリアル・プロパティとして、必要かつ十分に確保されている。構成資産は4～9世紀の考古遺跡と現在まで続く信仰の場からなり、沖ノ島(宗像大社沖津宮)に加え大島と九州本土の宗像地域に展開する一体的な空間に所在している。これらは沖ノ島を信仰の対象とする文化的伝統が築かれた古代祭祀の変遷過程と、現代まで継承されてきた過程を理解する上で欠くことができない。各構成資産は当該資産の重要性を示す諸要素・過程を過不足なく表すために適切な範囲を有しており、開発や管理放棄による悪影響を被ることなく、またそれらを規制して良好な状態を維持するための適切な保存管理が行われている。

○完全性

本資産の各構成資産の真実性は、顕著な普遍的価値に貢献する各構成要素の諸属性において、十分な調査研究により学術的価値とともに裏づけられている。これにより、資産全体としての顕著な普遍的価値の真実性が担保されている。

沖ノ島（宗像大社沖津宮）、宗像大社中津宮、宗像大社辺津宮の範囲内に含まれるそれぞれの古代祭祀遺跡については「形状・意匠」「材料・材質」「用途・機能」「位置・セッティング」といった属性において高い真実性が保たれている。それら三宮と沖津宮遙拝所が古代からの信仰を現代まで継承してきた信仰の場であることも、「形状・意匠」「材料・材質」「用途・機能」「伝統・技能・管理体制」「位置・セッティング」「精神・感性」の各属性において真実性が高い。また新原・奴山古墳群は、沖ノ島での祭祀を行い信仰を育んだ宗像地域の人々を証明する考古遺跡として、その「形状・意匠」「材料・材質」「位置・セッティング」の属性における高い真実性が実証されている。

9. 類似資産との比較研究

本資産の顕著な普遍的価値に基づく以下の項目について同種資産の検討を行う。

比較項目
① 考古遺跡が祭祀の実態やその変遷を物語るかどうか。 ② 祭祀を行った人々やその社会を示す物証を伴うかどうか。 ③ 信仰やそれを支える生きた伝統が現在まで継承されているかどうか。
比較対象の同種資産
1. 世界遺産及び暫定資産一覧表記載の同種資産との比較 (1) 固有の信仰に基づく考古学的祭祀遺跡を含む資産との比較 「パパハナウモクアケア（アメリカ合衆国）」「ラバ・ヌイ国立公園（チリ）」「セントキルダ（イギリス）」「オークニー諸島の新石器時代遺跡中心地（イギリス）」「マチュ・ピチュの歴史保護区（ペルー）」「紅山文化の遺跡群（中国・世界遺産暫定一覧表記載資産）」等 (2) 島を含む信仰の資産との比較 「首長ロイマタの地（バヌアツ）」「モン・サン・ミッシェルとその湾（フランス）」 「スケリグ・ヴィヒール（アイルランド）」「巖島神社」「琉球王国のグスク及び関連遺産群」等 (3) 地域・時代による分析（東アジアの周辺地域における紀元1～1000年の時期に当てはまり、時代背景を同じくする資産） 「竹幕洞祭祀遺跡（韓国・世界遺産一覧表・暫定一覧表には非記載）」等
2. その他の国内の同種資産との比較 (1) 祭祀遺跡 「三輪山」「神坂峠」「大飛島」等 (2) 信仰の場 「伊勢神宮」「出雲大社」「住吉大社」「斎場御嶽（久高島）」「江ノ島神社（江ノ島）」等

以上の比較項目に基づいた国内外の同種遺産との比較から、推薦資産が持つ顕著な普遍的価値は世界的に見ても他に例はない、と結論づけられる。

10. 構成資産の一覧表及び位置図

構成資産 別紙1のとおり

位置図 別紙2のとおり

11. 緩衝地帯(バッファゾーン)の位置図と適用される規制の内容

緩衝地帯は、構成資産周辺の陸域及び海域について、構成資産間の視覚的一体性及び資産の周辺環境を阻害する要因が生じないよう法的な開発規制、行為規制を定めている(範囲は、別紙2参照)。緩衝地帯のうち海域は、福岡県一般海域管理条例に基づき海面の工作物の設置等について許可制にもとづく規制を行っている。また陸域は、宗像市・福津市の景観条例で規制を行い、陸域全域を景観重点区域(大島は準景観地区)に位置づけ、建築物・工作物等の高さ・形態・意匠などの規制・誘導を行う。また宗像市・福津市は屋外広告物条例を平成27年11月に施行予定。更に平成25年度より緩衝地帯内における公共事業の照会を行い資産に影響を与える可能性のある事業について調整を図るとともに、特に重要な影響を与える可能性のある事業を対象に景観デザイン会議で指導・助言を行っている。

12. 保存管理計画の策定状況

各構成資産の保存管理計画および包括的保存管理計画については策定済。

構成資産		個別の構成資産保存管理計画	
1 沖ノ島 (宗像大社沖津宮)	「神宿る島」 宗像・沖ノ島と 関連遺産群 包括的保存管理 計画 平成27年 3月	史跡 宗像神社境内 保存管理計画 平成26年3月	天然記念物 沖ノ島原始林 保存管理計画 平成26年3月
2 沖津宮遙拝所			
3 宗像大社中津宮			重要文化財 宗像神社辺津宮 本殿・拝殿 保存活用計画 平成26年9月
4 宗像大社辺津宮			
3 新原・奴山古墳群		史跡 津屋崎古墳群 保存管理計画 平成26年3月	

13. 推薦に向けた今後の準備スケジュール

○今後のスケジュール

平成27年3月 国へ推薦書素案の提出(平成29年世界遺産一覧表記載を目標)
11月 宗像市・福津市屋外広告物条例の策定

○会議開催予定

平成27年5月16日 第6回世界遺産シンポジウム
「沖ノ島、その価値を未来へ伝えていくために」
文化庁長官・日本イコモス会長 視察
5月24日 第2回宗像国際環境100人会議シンポジウム
8月4～6日 国際推薦書原案検討委員会
9月4日 第13回「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議
10月 国際イコモス年次総会 福岡開催
平成28年1月8日 第14回「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議

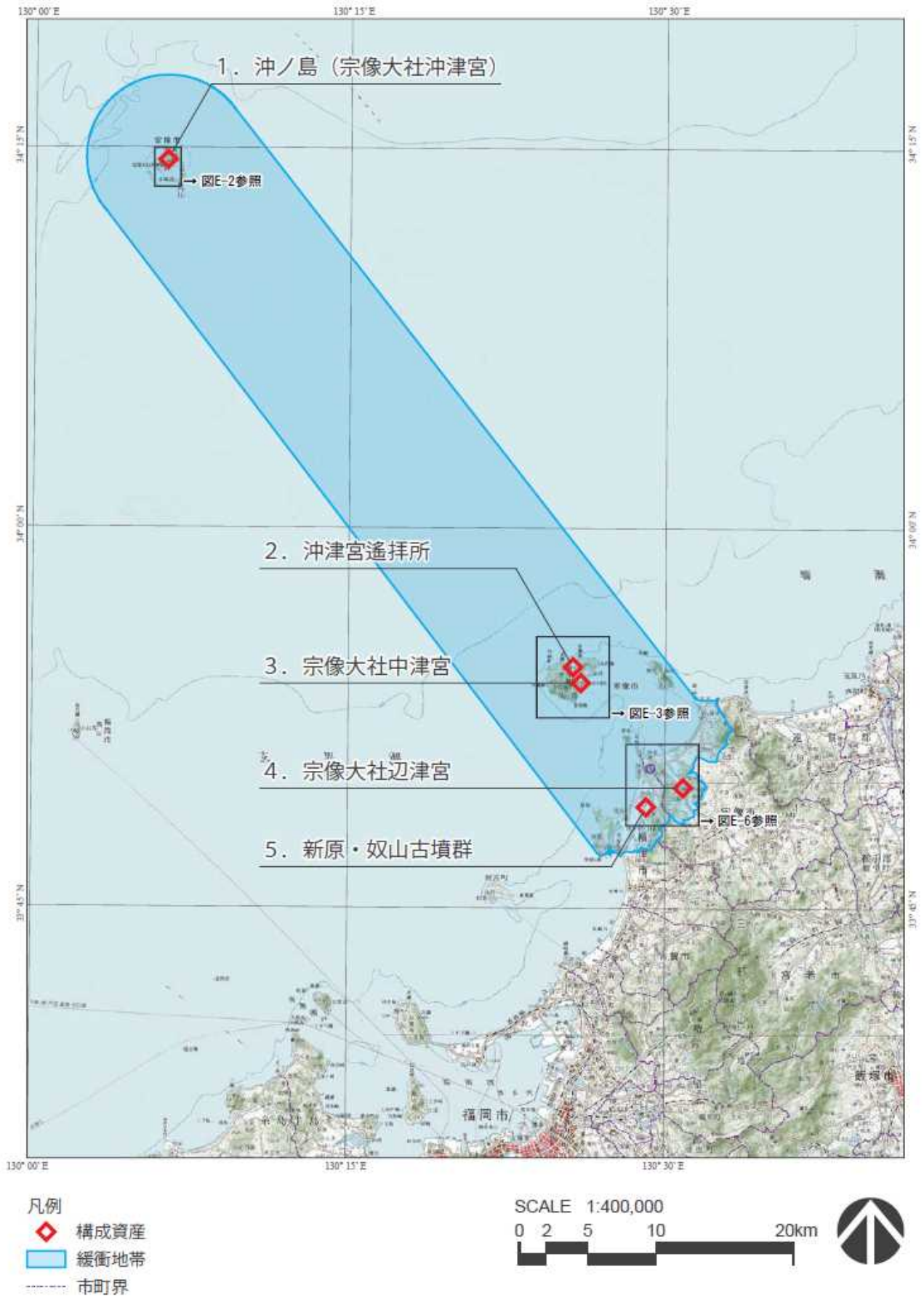
14. その他 なし

別紙1 構成資産の一覧表

資産名称

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

No.	(ふりがな) 構成資産の名称	国の 保護措置状況	その他の 保護措置状況	(ふりがな) 所在地	指定にむけた 準備状況	備考
1	沖ノ島(宗像大社沖津宮) (おきのしま(むなかた たいしやおきつみや))	・国指定史跡 (宗像神社境内) ・国指定天然記念 物 (沖の島原始林) ・国宝 (沖津宮祭祀遺跡 出土品)	・県指定自然環境 保全地域 (沖ノ島自然 環境保全地域)	福岡県宗像市	平成27年度に 沖ノ島の一部を 追加指定予定。	
2	沖津宮遙拝所 (おきつみやようはいじよ)	・国指定史跡 (宗像神社境内)	—	福岡県宗像市	—	
3	宗像大社中津宮 (むなかたたいしや なかつみや)	・国指定史跡 (宗像神社境内)	・県指定有形文化 財建造物 (中津宮本殿)	福岡県宗像市	—	
4	宗像大社辺津宮 (むなかたたいしや へつみや)	・国指定史跡 (宗像神社境内) ・重要文化財建造 物 (宗像神社辺津宮 本殿・拝殿)	—	福岡県宗像市	—	
5	新原・奴山古墳群 (しんばる・ぬやま こふんぐん)	・国指定史跡 津屋崎古墳群	—	福岡県福津市	平成27年度に新 原・奴山古墳群 の一部を追加指 定予定	



別紙2 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 構成資産及び緩衝地帯の位置図